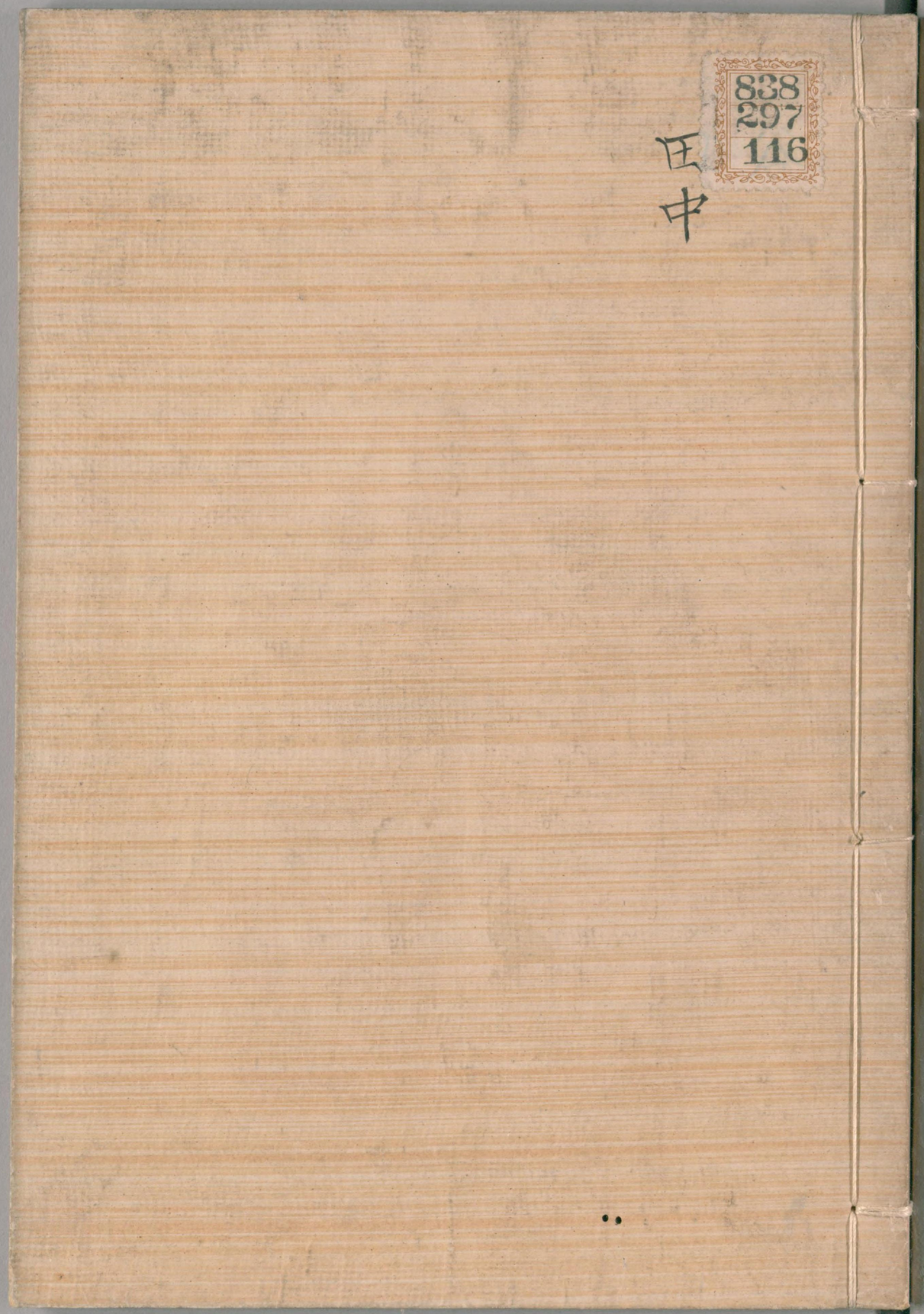
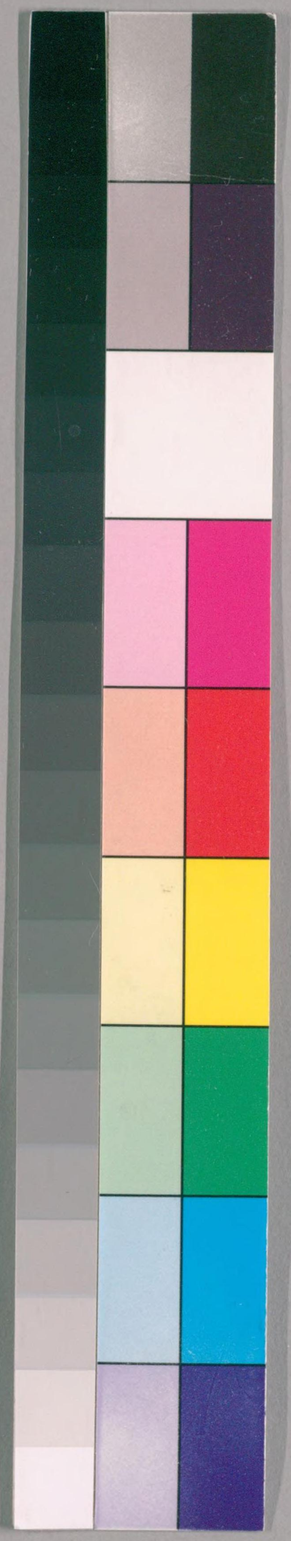

838
297
116



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

谷　源氏　本美濃

又　〃

又　源　〃

田中　源　田舎　本三川

又　楯　本近江

源氏

谷　本國美濃　紋上羽蝶

衛好　生於近江

谷大膳　仕於織田信長方云々　播州之本軍従秀吉戦死

衛友　谷　出羽守　生於近江　仕秀吉賜一万六千石　慶長五年庚子就病東帰　同十年乙酉七月七日惣懸之時自害　智浩　大坂物大軍而押寄衛友始同　先手備率令防軍時衛友仕於秀頼

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

源氏

谷

本國美濃　紋上羽蝶　勝相萬

衛好　谷大膳

仕於織田信長官至十七年摂州豊前守

衛友　谷出羽守

生於近江

仕秀吉賜一万六千石

慶長五年庚子就信於關東居於井伊谷

同廿年乙卯大坂役供奉大軍而押来待先手備中居敗軍時衛友始同

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

助二郎牛之助父子三人踏止接戦遂衛友馬驚故奪返
之馬上仰追着取返之助二郎牛之助谷右高名家士
疵傷多矣寛永四年卯十一月二十五日
万松山泉岳寺ニ心前荒鉄方居士

衛成 谷 雅楽助 内藏助
母

慶長廿年卯大坂役出羽守頼知高一万六千石内ニ千石軍役
居於永井右近大夫組為御先手
大神君大王子ニ移寺ニ仍奉賜御位牌
元文四年

衛之 谷 兵助 内藏助
母

寛永四年丁卯台知二千五百石後
御遺物銀百枚後為進物番
延享九年子百六十九年 薨於白屋瑞聖寺
号奇雲院殿峻嶺宗岳居士

子 谷 嘉九郎 衛利
嗣

衛治 谷 九兵衛
嗣

女子 建部傳左衛門道昌妻

女子 大島久左衛門 妻

女子 鍋殿新之丞長道妻

子　日下部兵左衛門尉道孝

女子　浅井七平　元孝

女子

衛貞　谷兵助　主馬

母

延宝九年酉七十二歳
同三年亥二十八年御供仕自害
同元年子七十二歳

衛行　谷　大膳

母　無剋

自害元年子七十二歳

衛勝　谷　助之丞

母同

慶長二十年卯大坂役五月七日惣懸放火和尚道助處
大七大軍押来挑戦仕先手衆過半敗軍時
父子之人踏止防ク谷尽軍功軍労数度
父出羽守兄助之丞又子三人踏止追拂敵谷尽軍功
之手負首九級実ニ軍後於二條而賜黄金百兩

衛政　谷半之助　大學

母同

慶長二十年卯五月七日大軍進来挑戦御先手衆過半敗軍時
父出羽守兄助之丞又子三人踏止追拂敵谷尽軍功九ヶ所
之手負首九級実ニ軍後於二條而賜黄金百兩

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寛永四年丁卯兄内藏助先死其男兵助幼稚故衛政為嗣
賜父衛友之遺跡一万八十二石外分知二千五百石於甥兵助
衛之二千石於弟内記千五百石於弟宇右衛門衛忠

衛清　谷　藏人
母同
寛永四年丁卯分知二千石

貞享五年戊辰七十七卒　葬於泉岳寺
号迎涼院殿天陰常地居士

頼衛　谷　平四郎　主水
母
寛文十二年壬子六十七歳　御目見献御太刀銀馬代
元禄元年戊辰十二月廿日二千石為寄合改主水
同二年己巳閏正十八日御禮献御太刀金馬代
宝永四年丁亥七十八卒　葬於高輪泉岳寺
号撰心院殿涼外常清居士
妻　本多氏部
女　大和三年主殿七十二縁組

衛永　谷　小助
母同

高豊　日根野小左衛門　權之助
為兄衛永子
実根野数三郎則最養子

衛章　谷兵之助　藏人
女

宝永五年戊子九月九日二子名孫次郎
四歳自御禮献御太刀金馬代
寛保元年辛酉十二月死
号泰善院殿心岩了空居士

女子
母　杉平四宮

衛平　谷　平四郎
母

妻奥田備後守
女　明和九年壬辰十月九日
号定相院殿元栄浄本居士

寛保元年辛酉十二月七日二子名於菊後伊勢守
伊予守傳ニ為士養子ニ組四ツ半時
宝暦二年壬申四月七日死
号瑞松院殿泰岳浄雲居士

女子
母　日根野権之佐高豊妹
（伊予守）

衛門　谷　鐵次郎

女子
母　伊勢伊左衛門

元文二年丁巳七月九日泉岳寺
号桐嶽院殿月泉蓉指居士

妻

妻　奥泉岳寺

女子
母　杉平四宮

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

衛壽

谷 主計

母

寶暦二年壬申七月日二千石旅御納戸御老中列坐

爲小普請組

爲御小性組寄附

天明二年壬寅正十一爲御使番 同年十二月十六布衣

同五年乙巳七廿五御病時爲寄合

寛政 年 爲火事場見廻

同十二年庚申二廿四爲御先手頭 享和二年壬戌閏正十六卒

病時爲寄合

女子

母

竹中住佐

大岡嵩之丞 妻

衛

谷 鑄之丞

主計

母同

文化

爲小普請

二千石 外ニ御役高之無之 外ニ足高 丹波守何之殿郎十二

衛忠　谷　宇右衛門

女子　岡

衛周　谷　八助　帯刀

寿谷　甚九郎　衛利

岡　大納言　是音御堂

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

生於江戸
寛永十八年壬十二歳目千五百
万治二年己未七十一為御書院
文禄四年未正五位下五十五歳
弓頭院殿鐵胸玄透居
某 谷權兵衛
女

衛常 谷 主税 帯刀
女
毒北條右近尉
文禄十五年丙午九月廿日
弓月被院殿高峰妙薩大姉
寛文九年己酉生於江戸

女子
女

衛直 谷七十郎 主殿
寛深津助進直秀男
実女谷帯刀衛門
天和二年壬戌生於信州飯山

女子
女

女子
女

文祖四年未十廿一歳目千五百名於
山城寺傳く為十善繕仏谷因幡守
御本刀金馬代為巡部帯刀組同
安於明江寺弓鉄胸院殿機峰玄崎居士

深津助進
女九郎
直秀

北方安房介

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

元禄十年丑七十歳法名旅翁同名俳名桃中軒雲裏金毘羅神社傍ニ葬ル
傳ニ為中興開山ト記ス神社ハ雄代同十四年ニ九社五ヲ為ス
宝永二年酉ノ年七社ヲ為ス大佳慶為ニ奉行津藩ノ
同六年丑二社ヲ遷座御免ニ付四年ニ及ヒ五十四年ニ
遷リ護国寺花元文元年申ノ年四月ニ
ヲ得神殿自適道性居士

女子　宋像手助
　妻花徳寺変氏利女

衛儒　名　勤負
　女
　　毒源還国書
　　　妻
　　宝永元年甲申九月五日没

女子　折井吉太郎昌辰妻
　　延享元年子ノ年六月九日

男　徳永與市郎
　嗣　　為徳永陸太郎
　　養子

女子　柳原内記
　嗣　　妻與妻

子保二年丁酉生於伊勢
元文元年申ノ年七月二日千五百石ヲ為ス
同十年乙丑ノ年御徴猷御太刀銀ヲ
同二年丁巳十二月四日為御中性組依頼代
寛保二年壬戌十七日年廿六歳於吸江寺
于瑞巌院開紹岳宗運居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

轉衛 為兄衛傳養子
母同

轉衛 谷 縫殿助
實岸

享保四年己亥生於江戸
寛保二年壬戌十二廿六跡目千五百石於菊間西御老中列座
松平左近将監傳之為小普請組松平出雲守支配
延享二年乙丑九十三為
有徳公御小姓組佐野右兵衛尉組寛延四年辛未七十二同小普請入
為二丸宗四郎組宝暦元年寛延四十二月四日改元御小性組伊沢
播磨守組同二年壬申十二廿一為進物番旨松平右近将監傳之
同六年丙子六十五奥城手城門渡御用於焼火間

松右佐渡守以書傳之同八年戊寅正十一為御使番同年十二八
布衣同九年己卯十二廿六為濃州郡上城引渡御用松平右近丙
少輔傳之明和四年丁亥閏九四死年四十九葬四谷
号大信院殿仁溪宗寛居士

衛明 谷 造酒助 頼母
母

妻 右 出羽守衛女
宝暦七年丁丑十五縁組

延享三年丙寅生於江戸
明和四年丁亥十二八跡目千五百石於菊間西御老中列座松平周防守
傳之為小普請組支配善左門支配同五年戊子四九拜謁之
献御太刀銀馬代
同六年己丑八十四為御小性組水谷出羽守組同八年辛卯六三
為進物番旨松平周防守傳之

天明二年壬寅正七為御使番同年十二布衣
同五年乙巳十二十三為大坂御目付代
同八年戊申十八死年四十二葬吸江寺
于頂指元院著庭寺指月庵寺

女子 黒川友之助 妻
女子 川勝清之助 妻

勝衛 谷 織之亟
妻谷播磨守倩秀女
妻谷出羽守衛衛女
宝暦十三年癸未生於江戸

天明八年戊申十二廿七海田市五百石於芸州行光中列坐
寛政元年己酉二廿二辞職後守花
同二年庚戌二廿九年廿八歳於吸江寺

光演 黒川鉄次郎 山口造酒助
為山口藤左衛門光演養子
明和五年戊子五廿七歳
于時文化十一年甲戌廿九日病死

某 女子 播磨守倩妻

某 女子 内藤治右衛門 妻

某 女子 居谷播磨守倩妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

衛 岩瀬駿助

衛 岩槻藤蔵守衛秀女
妻 女田切土佐守直年女
妻 石小右近将監速房養女 文化八年辛未十二月九日卒

天明四年辰生 於江戸
寛政二年庚戌五四歳 従五位下 壱岐守 侍従 高木筑後守武
卅波守傳ニ為ス 世嗣 詩注高木筑後守武
文化元年甲子二五為 御書院番 番頭
大阪守護
千葉名越高穆 井田何兵衛尉長命

衛 岩槻藤蔵守
女 女田切土佐守直年女
妻 石小右近将監速房養女 文化八年辛未十二月九日卒

衛 岩槻藤蔵守
女 女田切土佐守直年女
妻 石小右近将監速房養女 文化八年辛未十二月九日卒

衛 岩瀬駿助
岩槻藤蔵守衛秀女
妻 女田切土佐守直年女
妻 石小右近将監速房養女 文化八年辛未十二月九日卒

天明四年辰生 於江戸
寛政二年庚戌五四歳 従五位下 壱岐守 侍従 高木筑後守武
卅波守傳ニ為ス 世嗣 詩注高木筑後守武
文化元年甲子二五為 御書院番 番頭
大阪守護
千葉名越高穆 井田何兵衛尉長命

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

衛利 谷 甚九郎
母

衛 谷 與五郎
母 庄右衛門

寛永廿一年甲申法名
寛文七年丁未十一月一日 新規為御中間組本多左近守組

衛
谷 庄右衛門
妻
妻
正徳二年庚申二諏訪三百俵於蔀而行老中列座
加賀守傳ヘ為十番詰大島肥前守組
同九年己酉賜三百俵信告病
正徳二年壬子五月廿日卒赤坂種徳寺
号盛壽院殿因嶽道居士

衛
谷 庄右衛門
妻
妻
寛保二年壬戌六十九為
後明石小納戸宝暦十年庚辰
同十二年壬午十二月十五為免徒奉御納戸
安永八年己亥四月二日
天明五年巳十一月五致仕改民阿
為御小納戸宝暦十年庚辰
寛保二年壬戌六十九為
元文二年丁巳三百俵於蔀而行老中列座
寺保二年
為十番詰
妻谷出羽守衛女
姉目三百俵

衛門尉 谷 與五郎 主膳 庄左衛門

妻谷出羽守衛門女 女

妻谷出羽守衛門女 女

内藤頼母

安永四年乙未六月部屋住為御目見

同八年己亥四月十六日 御免為書院

文明五年乙巳十一月五日 拝領三百俵 取米三百俵 賜文陽院料

寛政 年 為御書院番被召出

同三年辛亥五月一日 為御小納戸頭取

右京亮 従五位下 侍従

文化 年 為御先手御鉄炮頭

長 東隆猪兵衛

嗣 大澤忠次郎

妻 竹中半右衛門 女子

妻 大澤甚五郎 養子

衛門尉 谷 邦之助

妻 内藤頼母 女

庄左衛門

女子

女子
母同

実政三十年十二月十七日辞権侍
従瑞井従五位下

仲頼　高原越之助　母同
為高原内記仲輝養子
勲馬

女子

大野佐左衛門雄光妻
延宝九年十月廿一日没法明寺
号信光院殿妙耀日受

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

衛廣 谷 出羽守
母

女子 谷 帯刀 衛門尉 谷 出羽守
母

照鴻 谷 大學 播磨守
母

宝永六年己丑二七日 勅諸大夫改出羽守於兎御書院頒
位老中列坐孝乃伯耆守傳ス
享保二年丁酉十九二改任同廿日拝謝ス 谷 兵部大輔

女子
母

女子
母

女子
母

有馬玄蕃頭則維室

酒井 紀伊守忠貫室

衛衛 谷 右京 出羽守
母 播磨守

室高木主水正女 寛政八年丙辰七月七日卒
同十五年癸酉九月廿六日葬禮逢寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

享保二年丁酉十月二日家督一万八千石井上河内守傳ク同九月日御禮献寺脇差御刀傳中物代金十枚
同年十二月叙諸大夫改出羽守傳ク同三年改元年詰ク献御太刀金馬代
同四年巳二十五依朝鮮信使来着神田駿河台ニ於御白書院御縁頬而御老中列座
於芙蓉間而井上河内守傳ク同年四月五日於御白書院而御禮
始在所御暇賜時服四領織同九年癸卯二月五日依御用御暇賜時服四領織同
同六年辛丑四月五日御暇賜羽織同九年癸卯二月三日於御白書院
而参勤御禮献波縁二巻御太刀銀馬代同年八月九日婚姻中禮献
御太刀銀馬代同年九月十三日於御白書院
御禮賜着物二領同十年巳二月十一日参勤御禮
同十年乙九月十三日御暇同十二年丑二月十三日参勤

女子
嵩
高有馬玄蕃頭晴維妻女
女子
嵩

宝暦十三年癸未五月十三日卒号天性院殿廟前石塔在
于泉岳寺

佐行修理大夫義堅室

衛将 谷 大学
母高木主水正正陳女 当暦十一年辛巳三十一歳寿泉岳寺
于室性院殿天生宗真大姉
寛延元年戊辰十一月十二日卒泉岳寺
同十四年辛巳十月廿日卒
于本覚院殿春雲元明方居士
葬於泉岳寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

衛秀 母同
為兄衛將養子

女子 母同 谷 頼母衛門妻

女子 母同 内藤頼母信安妻 誠前寺 母

女子 母同 青木甲斐守一秋室

女子 母同 小倉三郎右衛門相中将室

景熙 母同 遠山桂 十左衛門

寛延三年庚午三月八日生 衛秀
安永八年己亥十二月五日卒

某 谷 岩之助
為衛秀之子

衛秀 谷 鶴次郎 圖書 播磨守

實同生衛衛勇
實女妻女
室牧野豊前守康成養女実牧野越後守 長計 女

享保十四年己酉生於江戸
宝暦十四年甲申三月一日卒
於波間浦御老中列坐
明和二年乙酉十二月八日叙諸大夫改播磨守於御白書院頂戴
列坐阿部伊豫守傳之
安永九年庚子八十二歳
与天柱院殿庸覚方中大居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某 谷岩之助 早世
實大學衛將男

某 谷主馬之助 又
某 谷齊之助 又

衛量 谷鶴太郎 大學頭
母牧野豊前守惟成養子

母永九年庚十八剛遺領并設出羽守
於波陽得老中列座
天明五年乙十二十六叙諸大夫改大學頭於御自書院椽頭而
得老中列座水野出羽守傳之
同八年申四九改出羽守
寛政八年丙十二六改播磨守

辛酉元年辛百 辛卒 葬於泉岳寺

母 谷織之丞妻 母衛
母牧野豊前守惟成養子

衛睦 谷 外記
母家子

母 柳原田幡守 母卒
母同姓

衛萬 谷 房之助 大學頭
母
生於尸

幸和元年六月十一日十六副遺領并波地何處卿山葵二万八千石
於波州而御老中列座
同　年　十二月十六叙諸侯改大炊頭
文化十三年四月　幸

衛隅　谷博作　為兄衛量
　　冊　　養子

衛隅　谷博作　本家亮
　　重房

文化十三年四月十六日遺領并波地何處卿山葵二万八千石
於波州而御老中列座上野大炊頭傳ゟ同北一日拝領ゟ獻
参物御太刀馬代　文政二年卯十二月十六叙諸侯改大炊頭亮

并波地何處卿内十三万八千石之内
文政二年卯　幸

衛封（改衛助）　谷鷹之助
　　實ハ木甲斐守二男
　　重毎

播磨寺

播磨寺

文政二年卯十二月十一日遺領并波地何處卿二万八千石之内
於波州而御老中列座
同十一年子十一月拝領　御太刀銀馬代
同十二年丑十六叙諸侯改播磨守於御白書院縁頬而
御老中列座青山下野守傳ゟ同北日祥謝ゟ獻銀馬代
同十三年寅正五六為書状（野村支配加番）於波州御老中

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

列座大參儲加賀守傳ス同年九月御賜賜時服四領歳
同十二年庚寅十二月新敕押紙集ス

衛門

谷但木卿

母ハ儲相模守氏女ナリ

谷

本國美濃

某 谷 庄兵衛

生涯不詳

元和二年丙辰初テ召見ラレ御上洛供奉ヲ命ゼラレ御往路日付加五十俵ヲ賜ル
寛永二年乙丑供奉上京賜金子百九枚ヲ賜ル 御道物
金十両同十四年丁丑ノ年ヲ以テ為御往路日付加五十俵
同十四年為江州御代官八丈島ヲ兼ル
寛文四年甲辰二月廿一日老死ス時ニ年百二十三
法名浮月院青山淨雲居士

谷 陸奥守

妻 谷小左衛門 女

万治二年己亥七月朔日任従五位下
賜采地十人扶持寛文二年壬寅八
月四日卒辰二十二為八丈島御代官
引十一年辛亥七八月頃帰府時為中奥番
延宝三年乙卯正月朔日従五位下
与桃林院一見道号

谷 庄三郎

某

妻

文禄六年丁酉百十九石部屋住為中十人内藤甲斐守隊
寛文七年丁未年九十五歳隠居酒井大学頭時中十人組頭

某 谷 助左衛門

文禄七年戊戌十二月二日洞雲道白居士

妻

天和二年壬戌九月九日
行年頓悟

女子

貞享三年丙寅三月二日無隠妙事

女子

某 谷 新十郎

為山善詩組福島九兵衛時
同十九年甲寅正月九日卒大義寺与陽雲院竜山緑水居士

某 谷 助之丞

生没

享保十九年甲寅五月二日俗為中普請組福島九兵衛配
同廿年乙卯五月九日卒大義寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

葬 谷 新十郎

實同姓隆秀ノ二男

享保廿三戊午閏正月廿九日卒法名雄誉秀山信士

同年七月九日於須磨二百俵為中普請仰付ラル

元文二年丁巳六月九日於二条御城被為召出

于一室院月峯淳英居士

某 谷 金五郎

實

隆秀ノ

享保二年丁酉生於江戸

元文二年丁巳九月二日於二百俵御番列ニ被為召加

傳ク為中普請依野士ニ被為召加同四年己未三月六日卒去ス

新見但馬守組同七年壬戌十二月廿五日

寛延二年庚午十一月廿五日為其方中普請

宝暦十一年辛巳二月九日為免新御番煩而ヲ出仕差扣被仰付為

病ノ為ニ也ヲ和ス傳ク為中普請組中ノ方ニ

同七年丁丑七月九日老辞賜金二枚旨ヲ老中

ヨリ常流院宮ノ名ヲ以水戸ニ

某 谷 金五郎

母堂鏡院

毒ヲ飲ノ条山本源兵衛 養子

宝暦六年丙子生於江戸

天明七年丁未九月十二日於二百俵為中普請組中ノ方ニ被

同八年戊申九月廿九日為家督ヲ

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

某 谷鉄二郎
　母山本源兵衛　妻
　天明二年庚寅生於江戸
　同八年戊申信文君追放年六

某 谷義之助
　母同

　天明五年乙巳生於江戸
　同八年戊申信文君追放年四

源姓
谷 本國美濃 汲上羽場

杨明 谷瀬兵衛
　御持弓組與力

杨明 谷右仲
　自御持弓組與力出身
　到寛政九年丁巳番頭

内藤平

增太郎
女
文化五辰年十二月五日百俵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

增本郎
母
文化五辰年十二月五日百俵

源姓
田中
本国三河
故有氏
三頭左兎

田中五郎右衛道之男
田中大炊助
？？童子
出上州寄之
顔田郎生年

出元
田中五郎右衛門
但参州顔田郎生年
明應二年壹刊三河国碧海郡安祥城
就居井田合戦出忠之五郎右衛門
永正十年壹百五八死年廿五才道覚
後贈諦了院殿道覚法元居士

未詳
田中彦五郎
五郎右衛門
生州

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

明應二年癸丑始孝仕
就成居井伊役全軍功後孝仕
長就居後以稲誘居于同州額田郡岡邑
天文八年己亥八月二死年七十九号道授 後贈暁覚院殿義親諱道安居士
妻 三州菅生満性寺女

義之 田中彦次郎
母満性寺女
延徳二年庚戌生于三州額田郡岡邑
出于三州岡崎孝仕
清康居尾州上野後三州守崖後従行
天禄四年辛卯三月四日死年四十二号曽生満性寺 本光義光
後贈寂光院殿安刹浄西居士

女子

某 田中與次郎

女子
母同 倉橋惣三郎 妻

義綱 田中彦次郎
母覚浄尼女
大永五年乙酉生於三州
出于孝仕賜采地三州額田郡岡邑 生年四十六賞
元亀三年壬申十二月二二日於遠州三方原役戦死年四十九号道光
後贈法照院殿浄常道光居士

女子 覚 妙寿 妻

女子

女子

義暘 田中五郎太
母新見七郎三郎女
元亀三年壬申十二廿二死亡

女子

義忠　始名信位　僧侶　浄住寺
元慶四年生　母文徳院尚侍

義述　田中彦次郎　五郎左衛門
　　嗣

天文廿二年甲寅生於江州
永禄五年壬戌到浄住寺為出家　名名知元　遠江守甲斐守
外無他子　元亀二年辛未春一類議而義忠息幼
方伸居于西京　年十八仍呼伴僧同十九年辛卯
中将　同廿年壬辰十二年甲午到駿府謁神君
同廿三年丙午駿府謁神君　同廿四年丁未三月十日
于海蔓院殿　昇座意位　致老
大将信義忠息

元秀　田中彦三郎　市右衛門
　　嗣

永禄元年戊午生於江州
慶長元年丙申十月廿四日
寛永元年甲子八月九日卒于浄源

元次　田中彦六郎
　　嗣

慶長四年己亥生於江州
寛永四年丁卯浪人　田中彦右衛門

元直　田中彦四郎

子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

忠房　田中五助　一郎左門
　妙
　杉本右京進長忠女
　生國三河
　天正九年弟修理
大神君同十二年長幸年役従行其忠
賜御感物役賜年俸二百俵
元和元年弟織五百石年俸之内
弐百俵分捌為領宛永二年賜知行　御朱印同九年二百石
　此外多賜那男金那五百六十石同知
同年八十八為新組士大頭同十年壱百十二人
扶持方五駄同心廿五人
預與方五駄同心廿五人
慶安二年庚寅二十六元年
　寄進
　増上寺
　寛永寺
　紫雲院殿生害意春庚生

義次　田中五郎右衛門　始彦次郎
　妙圓
　生國三河
慶長十六年酉年誕生奉仕駿視第仕右
元和二年丙辰為大御番杉本出雲守組
同十年甲申並加二百石凡四百石賜采邑
同十九年癸酉廿六年
　号顧斎　始号彦次郎　三度

長正　杉本十九郎
　妙圓
　為杉本右京進長忠養子

義晴　田中五郎右衛門
　妙
　　法名小笠原五兵衛門
　　元和八年戌五月生

寛永十九年壬午暗殺首名為
慶安二年己丑五二為大仲寺本多内匠頭
明暦二年丙申九死年三二葬中目向龍雲寺号光譽智著信士

女子
母同

松野金右衛門助友

女子
母同

杉浦新十郎友門 堂右寿 元禄七年甲戌七死年三屯寺
于下源院埋除永昔信女

義久 田中吉之助

寛松野金右衛門助友男
寛母田中五郎左衛門義次女

乃治元年癸丑十年八暗首署名為小普請遠山長門守
寛文十二年壬子四月九死年廿五等重罪

元和元年生ル

注名岩田義楊信士

義勝 田中金次郎 傳右衛門

寛松野金右衛門助友二男
寛母田中五郎左衛門義次女

寛文六年丙午生於尸赤坂
同十二年壬子七十二暗首署名為小普請遠山長門守
元方小ル

元禄五年壬申十九為新御番神尾市左衛門組同十二年己卯二十六為小膳奉行宝永六年己丑二廿六組番
新御番安藤次右衛門組正徳元年辛卯二廿七為小十人組
享保四年己亥七十五歳年五十四等龍翠
法名桜岳道開居士

義孝 田中金十郎

母宮部女

寛延二年己巳廿三年出孔歩同寺
法曉院誠介去理大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

義

田中壽十郎

實 出羽氏 杉下内匠

養 女

壽養父彦治郎

文政四年壹正七ノ十四番

女子 女子 女子

養子壽十郎

壽

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

義

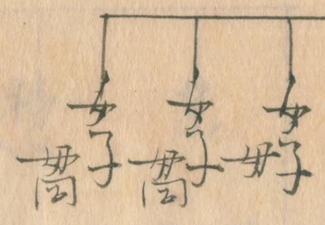
田中壽十郎

實 治郎式 松下甲運 二男

養母

壽養父彦次郎

文政四年壹正七十卒番



養子壽十郎

壽

某　田中三郎右衛門
　母

田中小十郎　一郎左衛門兵衛　一郎左衛門

勝久　母同
寛永十六年卯為嗣子
正保二年乙酉六十二才位為勅
三百俵　慶安二年己丑八二歳
明暦二年丙申七月九日
于遠寿院殿本譽壽高　居士
勝手　田中三之丞
　母同

寛永十六年卯　正十六元寺　桂岸院
于德穂院殿華書本譽屋

元禄十年丁丑十一月九日
于順性院殿法誉妙慶大姉

延寶四年丙子九月朔日
于貞曉院殿覺譽向本屋

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

田中主殿介

忠運 一郎左衛門尉

妻 代官五味藤九郎娘

天和三年癸亥七十二歳 自千石弐
御小性組松平伊賀守組
正徳二年辰六二死去 寛国寺
于嶽高院殿。和倫也居士

元禄十三年庚辰二七日 寛国寺
于楊柳院元誉妙春大姉

女子 母五味藤九郎娘

基国 母同

田中助之丞 一郎左衛門尉 出羽守

勝芳 実中根壹岐守正冬實
実母秋山修理亮女子

正徳二年辰八月七日千六百石
同年十二月一日御小姓組 太刀金馬代於御
寺使四年甲午十月十日 御中奥
元文四年己未二月二日 御中奥組 実頂二年癸卯六月五日
寛保二年癸亥六月五日 従五位下出羽守
叙爵 同年十二月十六日
同年十二月廿八日 諸大夫改出羽守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

寛延二年辛巳十月公為中普請總
宝暦十二年壬午二月　為
明和五年戊子七十六歳
于徳本院殿従五位下前羽州侯

某
母

勝茂　実

母毛利一郎右衛門
寿
重寿臣報

宝暦十二年壬午九月廿日不信為御書院番
二番賜三百俵明和二年酉三十二進物番

宝暦十三年癸未正月九日同時廿
于俊子院殿順号番医方ヲ以
安永八年己亥十二月六日同
于智性院殿明号覚撃寿

明和五年戊子
安永五年申二月為御徒頭同年十二月於菊間光叶列座
天明六年丙午九十九歳
于浄嶽院殿空蒼居士　安永頭本座

元文三年戊午九十九歳
于英巌院妙善日勝尼

元文三年戊午九十五歳
于出覚英幼童子

元文三年戊午十四歳
于島性院雅量智能童子

寛延二年己巳十一月廿三日
智恵光院于極心院松峰圭芳童子

子　母
某　母田中猪之助
子
子
子
女子

勝豊　田中一郎左衛門　始メ立助左衛門

勝豊　妻　改名ス　松井源物係勝豊女　実ハ島長八幡正祥女

妻養父勝豊

継妻

文明二年庚寅七十歳寿
同六年甲午五十六歳目千六十二石

文明二年庚寅八月松平摂津守
智教院殿従四位下侍従兼
寛政七年乙卯七十六死寺領寺
領慶林院殿従四位理性大姉

養子　勝豊壽

女子

某女　田中

妻　広田惟守忠実男
　　実母同家

嗣子　田中主計

寛政七年乙卯七月七日
於岐阜陣屋慈徳院殿惠風壽安

女子
寛大名保長門守教孝
寛政九年正月薨

橘姓
田中
李國近江

重政 田中惣左衛門

吉政 始長政
田中竹次次 久兵衛 兵部大輔 筑後守 從四位下侍従
妙宮部善祥坊 國友與左衛門妹
妻國友與左衛門 女

天文十七年申生江州高島郡田中邑
居江州田中邑純又重政ゝ歸耕作農業今茲天下擾乱而安衆傑起家
業之欲為武家起又祖父名絶俾耕業慶田園為武士
去天正五年丁丑始届于吉郡善祥坊僅得給方四十年ニ年仕閑日
秀次得食邑三百石後加秩三百石九六百石
秀次以為臣接知行ニ千石百十五年
秀吉之意於江州蒲生郡八幡山築城秀吉修築葺加秩

賜二方石同十六年戊子三七叙従五位下改兵部大輔同十年庚寅補
出雲介依例年於府已尽軍功同二年七月北陸合戦之間等抜於衆卒
額田郡同時城賜五万七千四百石地
文禄四年乙未八月加二方石賜羽州鷹尾城慶長元年丙申七廿一加秩二万
四千二百石為御前賜吉之子与吉改仮顔十方千六百石
同五年庚子十月関原御陣之軍功賜筑後州一国并三十三万五千石
同八年癸卯二月従四位下任侍従筑後守
同十四年己酉二十八死年六十二幸干伏見施舎
号大格院殿前筑後大守機転通越大智士

始改顕 吉次 民部少輔
母岡友興女

生岡近江
慶長七年壬寅改伏見拝
大神君後紅緒変陥民部大輔石廬文吉改之心而不睦終退筑後州諸国
澤泊於室而死

始源次郎

吉興 母岡友興女
慶長十四年己酉賜父吉次之遺領於筑後
寛永六年己巳五六死葬小石川吉祥寺
与明石羽半畦方居士
吉興死無嗣以二方石祖父之

吉信 母岡友興女
為恭臣

忠政 始長兵衛尉
母岡友興女

田中主膳 若年而死 無子

田中隼人 筑後守

田中民部 母家女

田中久兵衛 始源次郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

慶長十四年七百六四賜又遺領筑後四一国秩三十二万五千石毒時歳
為證人在于日向此国九年至五賜御守刻従四位下于筑後守歳改
元和二年庚申八七卒去葬岩梢筋山吉祥寺
号傑岫玄笑大居士
妻杉平国憑寺康元女 忠政卒後剃髪家嫁杉平左衛門佐

始一宮
定政 菅沼新助 田中吉政 主殿助 主殿頭
母菅沼織部正定盈五男
実母某女

文禄二年壱岐之九生
慶長十四年七百始拝
元禄其後為御小姓賜五百俵然ル処無男子請定政為猶子
ル共酒有不謂仕勢居中寛永二年死
元和元年乎五七大坂役動御陣番而出軍有高名得首級四年廿六
加俵五百石寛永元年壱岐又ル共九二方石加五之内多賀谷三千石賜五千石

女子
母 養子定政妻 定宝四号陽樹院殿安室貞心大姉

同九年甲四六為御書院番頭同十年
同十九年乎九十為大御番頭同廿
正保二年為春二條御番同四年十月
明暦四年壱岐正九九年六十六葬四谷雄峰山金勝寺
号瑞巌院殿

某
母某姓吉奥女

定房 田中新助 内匠 大隅守
母同
妻土岐山城守頼行女
寛永十二年七月十三生没
同十八年壱岐四六始 御目見就御太刀銀馬代

寛永十二年七月七四大葬于谷金勝寺
幼玉池院童子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

寛文六年中廿七廿八
明暦四年戊戌四十九才 中見賜文遺跡五千石
同七年二廿二依自仲禮献侍太刀馬代金弐枚後法名宗清
寛文六年丙午二廿七為御書院番組同年十二廿八知五百石大隅守
同九年己酉八十五為大御番頭六千石加増
賜七千石同年七十一賜 御暇出
元禄四年辛未六廿三日病篤為嘆参詣四谷左勝寺号乾峰院殿一提良峯屋

建賢 田中主殿 安芸守 安芸国
母土岐山城守頼行女
妻杉本遠江守忠俱養女 妻水野若狭守忠辰女

明暦三年丁酉五十一生 同月晦日法名大助
寛文五年乙巳十二十二始 御目見 御太刀銀馬代改正殿
同十二年壬戌十二廿八叙五品改従五位下 越後守
御礼御太刀銀馬代 後改出羽守

元禄五年壬申七廿二薨 同日七ヶ寺於芸州御先中御別墅七ヶ寺傳く
為嘆参詣同年九月八死年二十六葬 同日六ヶ寺於芸州加賀守傳く
号善乃院殿曲言日欽大居士

妻同
寛文十二年子十二十九生

定芳 田中大助 主殿 安芸守
妻杉本遠江守忠俱養女 元禄十年丁丑生
母同

延宝五年丁巳生
元禄五年壬申十二廿二歳 目見 御太刀馬代金三枚
同年七廿七始自仲禮御太刀馬代金三枚
同十年丁丑二十死年廿一葬 全勝寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

兵書知院殿良材　号大原

定安　田中権次郎
醫
元禄五壬申十二十二日知于石
同十二年十五為兄養子自願于石給

定守　田中権次郎　内匠
重房
元禄十年丑七十歳自六千石於加州
為寄合改内匠同年八十三絶自御徒
同十五年壬午二十二礼氣由是知行六千石被召出于御
正徳四年甲午二九被召出于御賜
享保四年己亥二十二死年　等全勝寺
于本覚院殿鎮伸即心大居士

定堅　田中平四郎　主殿
安房
正徳四年甲午二九新規被召出賜新知五百石
享保
寛延二年己巳十二十二死年　等全勝寺
号曹源院殿満庵洞水大居士

政昌　田中久兵衛　始数馬
卅
妻和田五助
娘　菅沼吉左衛門
女
女
女　実者元禄十六年十六死　等全勝寺
号雲相心院殿紅林智善大姉

政諧　兄
春十

政諧 田中佐助
安房守

壽小林

再壽之女 従四位上侍従 安藤対馬守室

明和八年辛卯十七歳 父子同時
于長白院殿笑山遊花大禅
尼

安永二年癸巳九廿四父子玉岩智學童女

安永五年丙申二十九歳 父子同時
于壽春院殿柳顔芳林大禅
尼

女子
女子 田中弥助

女子
女子村岩物安藤家

天明四年甲辰五二父子同時
于玄海潮路童女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

武家盛衰記

田中民部兵衛七次　於常幸

民部

文治元年源頼朝卿
追討義経於吉野山
民部怒而合頼朝卿
為不通親族出入無用之
方治元年頼朝卿上洛之
七度拝官後其翌年大陽寺竜
者労此等以心得可合力者也
某　年　月　日　後日実名書入

為追山主加功労侍并内裏造営
常勤意故拝内官田中大隅書

無子断絶

民部卿兼兩人内獨布施取大陽寺雜事呼出之答仍
爲改田中吉政爲番役奉行而三日四度仕數忠施自大陽寺以
官方令揚之故度度總勢以吉崇之旅大陽寺家死出

業 田中新助
以兄吉政之願出大陽寺番退指

吉政 田中兵部大輔

吉之 田中主馬
実吉改一旌也
仕田中吉政関原役進先軍以有軍
物五千石之加方令申酒人於京而死

政栄 田中三郎右衛門 子數次 盛義 母吉政
仕井伊掃部頭
実永七年六月四日
仕秀種度
子仕九年普光

頂政 田中平兵衛 注桃井内蔵助
仕多中書疏減者也後改姓
留守居三百石余子仕年多改氏
大行七年七月廿日卒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用